

令和6年度 厚木市障害者協議会 第3回 一貫した子育て・療育支援プロジェクト

日時	令和7年3月27日(木) 午後2時～午後4時30分
場所	アミューあつぎ 6階 606
出席者	厚木市障がい福祉課、厚木市教育委員会、 厚木市こども家庭センターこども保健第二係、青少年教育相談センター、 厚木市こども政策係、厚木市保育課保育認定・給付係、座間支援学校、 伊勢原支援学校、えびな支援学校、厚木市手をつなぐ育成会、 やまびこ会(厚木市自閉症児者親の会)、えんじえるビレッジ金田、 厚木市社会福祉協議会、一般社団法人クロスオーバー大和、 事務局：厚木市児童発達支援センター、厚木市障がい福祉課、 厚木市こども家庭センター(発達支援係)、厚木市障がい者基幹相談支援センター
<p>1 開会 資料の確認</p> <p>2 議題 (1) 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所連絡会より</p> <p>・合同事業所説明会について 2/24(月祝) AM PM 2/25(火) AMに合同事業所説明会を開催した。来場者は100名。大半は厚木市民であった。アンケート回収率は60%、来場者全体の半分は未就学時の保護者であったが、高校生の保護者もいた。 この説明会の目的は、集客ではなく、子ども一人ひとりに合った療育を広めていくこと、マッチングの機会のある場である。 説明会をどこで知ったかについては、「それぞれの事業所で配られたチラシを見た」が一番多く、次いで「まめの木や学校でポスターを見た」、「市のホームページ」、「インスタ」、「広報あつぎ」だった。「デジタルサイネージで知った人」は0で、再生の時間が短かったのではないかと考えられる。 感想や意見としては、開催時期について、夏休み前にやったら良かったのではないかと、送迎の有無、土日の営業、受け入れの年齢を明確にして表示した方が良かった、他の事業所と連携して、お子さんの特性を聞いて紹介できたことが良かった、様々な体験を子どもにさせてあげたいと考えている保護者が多いことが分かった、祝日に開催し、父や家族そろっての参加があつて良かった、などがあつた。各事業所には、開催後、問い合わせや相談の連絡が増えている。 来年度以降の開催や内容については、連絡会で検討していく。</p> <p>・事業所連絡会報告 3/10開催 4つのグループに分かれてテーマ別に検討を行った。 ・Aグループ 学校・行政等関係機関との連携 ・Bグループ 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所説明会計画 ・Cグループ 防災対策BCP ・Dグループ 研修制度・体系について</p> <p>Aグループでは、相談支援事業所との連携体制構築や、学校との連携について話し合った。 送迎の場所や時間のことでトラブルになったことが話題にあつた。送迎の時に、担任の先生の付き添いなしで、児童生徒が一人で送迎車まで来るとも頻繁にある。</p>	

各支援学校では、年度の初めに学校と事業所の顔合わせや話し合いの場を設定している。その後、事業所が学校の授業参観に参加する等、コミュニケーションが深まった。今後は、厚木市内の学校でも関係性を深めていくことができればよいと考えている。

C グループでは、災害時に他の事業所が被災し使えなくなった時に、近くの他の事業所で受け入れができるような仕組みを今後検討できれば良いという意見があった。

D グループでは、来年度、新人のスタッフ向けの研修を企画し、市内事業所全体のスキルアップを図っていきたいという意見があった。

・意見交換

・厚木市手をつなぐ育成会

ガイドブックに送迎の有無などが載っているが、知らない保護者も多い。説明会の会場の中にガイドブックが閲覧できるようになっていたが、来場者全員に配布できれば良かった。

・やまびこ会（厚木市自閉症児者親の会）

相談支援事業所との連携について、セルフプランが多いように感じる。お子さんが小さいうちは良いが、将来を見据えて早いうちから相談支援を利用している人の方が、情報を持っているように感じる。

同じ地域にある相談支援事業所と児発放デイ事業所が交流する機会があればよいのではないかと。

学校への送迎について、学校の先生に引継ぎをお願いするのは負担ではないかと感じる。

安全に送迎ができるのであれば、それで良いのではないかと。

・厚木市児童発達支援センター

支援級在籍児童生徒も帰りの会やホームルームはそれぞれの交流クラスで受けるため、支援級の担任がそれぞれのクラスに散らばってしまった児童生徒の下校に対応できていないことがある。安全に下校、事業所スタッフへの引継ぎができるよう、学校と保護者、事業所でルールを決めて対応していきたい。

下校時間一覧表の周知や、交流級で帰りの会に参加した後、支援級に寄ってから下校する等の方法が考えられる。

・えびな支援学校

本校でも今後学校と事業所の交流会開催を検討していこうと思う。

・伊勢原支援学校

本校では、夏休みに教員が各事業所を訪問し、お子さんの様子について話を する機会を設けている。その際に学校参観の案内をして事業所に来校してもらい、情報交換している。

・座間支援学校

本校では、2月に事業所との連絡会を開催している。日課の変更が多く、迎える時間が変更になる。基本は、保護者が学校に連絡だが、スムーズにいかないこともあるので、ホームページに載せる等工夫を考えていきたい。

(2) 医療的ケア児コーディネーター連絡会議より

・医療的ケア児ガイドブックーお家に帰ったらーについて

医療的ケア児が病院での経過観察（入院）を終えて、必要な医療機器を携えて自宅に戻った時（退院）に、ヒントとなるような内容を厚木市障がい福祉課でまとめたもの。

以前からあったが、今年度内容を改訂し、ホームページにアップしている。

ページID 34874

・厚木市の課題について

- ・保育園に入所することが難しい
- ・気管切開、人工呼吸器の児が救急搬送できる病院がない。
- ・18歳以降通所できる場所がない。

- ・児発、放デイなどの福祉サービスで、利用できる場所が少ない。
- ・各事業所で受けている相談や課題について
 - ・七沢療育園～コロナ明けから短期入所の希望が多く、希望通りに受けられなかったり、長く待たせてしまう現状がある。
 - 今年度厚木市内で医療的ケアのある方を対象にした日中支援型のグループホームが2か所開設される予定があり、短期入所事業も実施予定。現状児童は対象ではないということだが、事業所に課題を伝え検討してもらおう。
- ・厚木市の医療的ケア児支援体制について
 - ・厚木市ではゆいほあとにコーディネーターを1名配置しているが、その他の養成研修修了者の役割が不明な現状がある。今後は役割を分担して体制を構築していく。
 - ・来年度県から養成研修受講者募集があったら、医療職（看護師）を推薦したい。
- ・意見交換
 - ・座間支援学校
 - 本校は、保護者から「困った・・・」と相談を受けている。卒業後の通いの場について、週5日通所することは難しい、毎日違う場所に通所することになる、他市の事業所を利用しなければならない、利用できても送迎がない等の相談。
 - 医療的ケアのある方を対象にした日中支援型のグループホームが開設することはありがたい。
 - ・事務局
 - 保育園入所について、2件相談があったが申請には至らなかったと聞いている。
 - 保育園に看護師を派遣できる制度を利用できるのは3歳から、育休復帰を考えるのは1歳か1歳半なので、難しい。
 - 幼稚園についても、令和4年度に1件相談があったが、入園には至らなかった。
 - ・事務局
 - ひよこ園でも今後、市内の幼稚園や保育園と連携を図っていきたい。

(3) 厚木市より

- ・医療的ケア児ガイドブックの改訂を行った。各機関で必要な方に周知普及をお願いしたい。

(4) その他

- ・来年度のプロジェクトについて

マイサポートブックとサービスマップを作成し、周知普及を行ってきた。この取組については各機関で継続し、今後も随時見直しを行っていく。

「保護者支援」から「インクルーシブ社会に向けた取り組み」に視点を変えて、このテーマについて取り組んでいくことを事務局からは提案したい。

例えば、医療的ケア児の保育園、幼稚園入所について、一緒に参加する、学べる活動できる機会があることは、子どもにとって大きな意味があるし、学校教育におけるインクルーシブ教育については、実際どんな取り組みを行っているのか、よくわかっていない現状があるのではないかと、また、学齢期の学童保育におけるインクルーシブについて検討していくことは、保護者の就労支援に繋がる。

ひよこ園に通所している児童が、就学前に1年間幼稚園に通園したいと考え、相談するが断られる現状がある。1年間幼稚園で活動することによって、子どもたちは小さいうちからいろいろな仲間がいることを知ることができるし、保護者にも同じ効果があると考えられる。

以上のようなことを来年度以降検討していきたい。

- ・厚木市手をつなぐ育成会

厚木市防災ポケットブックを作成した。ホームページからもダウンロードできる。自助も大切だということも盛り込んで作成した。来年度は自分のこと編を作成予定。

・一般社団法人クロスオーバー大和

- ・4/7 かながわA自閉症啓発デーイベント 大和市鶴間イオン1階 11:00～16:00開催
- ・医療的ケア児の保育園、幼稚園については他の市町村でも課題になっている。園側が相談できる場所が少ないことも理由の一つだと考えられる。
- ・児発放デイ事業所説明会を開催して良かったということであったが、他の事業所では何をやっているか、何に困っているかを知る機会になったり、事業所同士がつながる機会にもなっているのではないかと思う。児童だけではなく成人の事業所でも開催しており、違う市町村の事業所も利用することができるため、県央圏域で開催時期を調整して実施することも今後検討していけると良い。

以上